



平成28年4月13日

各位

東京都大田区大森北1丁目1番10号
 会社名 株式会社大庄
 代表者名 代表取締役社長 平了寿
 (コード番号 9979 東証第1部)
 問合せ先 専務取締役 水野正嗣
 (TEL 03-5764-2229)

第2四半期業績予想との差異及び通期業績予想の修正 並びに特別損失の計上に関するお知らせ

平成27年10月14日に公表した平成28年8月期第2四半期累計期間の業績予想と実績との差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。また、通期業績予想の修正及び特別損失の計上につきまして、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 業績予想との差異および修正について

(1) 連結

第2四半期累計期間連結業績予想値との差異 (平成27年9月1日～平成28年2月29日) (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株式に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想 (A)	34,700	210	210	90	4円35銭
実績値 (B)	34,907	66	60	△208	△10円10銭
増減額 (B-A)	207	△144	△150	△298	—
増減率 (%)	0.6	△68.6	△71.4	—	—
前期第2四半期実績 (平成27年8月期第2四半期)	35,414	△534	△544	△443	△21円42銭

通期連結業績予想の修正 (平成27年9月1日～平成28年8月31日) (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株式に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	70,150	1,010	1,010	430	20円79銭
今回修正予想 (B)	69,250	600	600	1,740	84円12銭
増減額 (B-A)	△900	△410	△410	1,310	—
増減率 (%)	△1.3	△40.6	△40.6	304.7	—
前期実績 (平成27年8月期)	70,765	190	181	△2,049	△99円06銭

(2) 個別

第2四半期累計期間個別業績予想値との差異 (平成27年9月1日～平成28年2月29日) (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想 (A)	29,900	140	140	50	2円42銭
実績値 (B)	30,004	△75	△67	△274	△13円27銭
増減額 (B-A)	104	△215	△207	△324	—
増減率 (%)	0.3	—	—	—	—
前期第2四半期実績 (平成27年8月期第2四半期)	30,632	△614	△620	△477	△23円09銭

通期個別業績予想の修正 (平成27年9月1日～平成28年8月31日) (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	60,500	830	830	330	15円95銭
今回修正予想 (B)	59,400	300	310	1,180	57円04銭
増減額 (B-A)	△1,100	△530	△520	850	—
増減率 (%)	△1.8	△63.9	△62.7	257.6	—
前期実績 (平成27年8月期)	61,221	32	24	△2,140	△103円47銭

2. 業績予想との差異および修正の理由

(1) 第2四半期連結業績予想値との差異の理由

売上高につきましては、飲食事業において、当社グループの既存店売上高の累計実績が対前年比 101.8%と、当初計画（対前年比 100.7%）を上回ったことが影響し、前回予想を若干ながら上回りました。

一方、営業利益、経常利益、四半期純利益につきましては、一部人件費（賞与引当金等）について、当第2四半期にて割増し計上したことなどが大きく影響し、前回予想を下回りました。

(2) 通期連結業績予想の修正理由

売上高につきましては、不採算店舗のリストラクチャリング策をより一層強化し、下半期（平成 28 年 3～8 月）の店舗改装（業態転換を含む）や店舗閉鎖の計画数を大幅に増加させたため、既存店売上高の減少が見込まれることが影響し、前回予想を下回りました。

また、営業利益、経常利益につきましては、店舗改装の増加に伴い諸費用の増加が見込まれることや、人件費では賞与引当金計上を割増したことなどが影響し、前回予想を下回りました。

一方、当期純利益につきましては、平成 28 年 3 月 1 日付で開示しました通り、固定資産売却益 4,761 百万円を特別利益として計上することが大きく影響し、前回予想を上回りました。

(3) 第2四半期個別業績予想値との差異の理由

売上高につきましては、既存店売上高の累計実績が対前年比 101.8%と、当初計画（前年比 100.7%）を上回ったことが影響し、前回予想を若干ながら上回りました。

一方、営業利益、経常利益、四半期純利益につきましては、一部人件費（賞与引当金等）について、当第2四半期にて割増し計上したことなどが大きく影響し、前回予想を下回りました。

(4) 通期個別業績予想の修正理由

売上高につきましては、不採算店舗のリストラクチャリング策をより一層強化し、下半期（平成 28 年 3～8 月）の店舗改装（業態転換を含む）や店舗閉鎖の計画数を大幅に増加させたため、既存店売上高の減少が見込まれることが影響し、前回予想を下回りました。

また、営業利益、経常利益につきましては、店舗改装の増加に伴い諸費用の増加が見込まれることや、人件費では賞与引当金計上を割増したことなどが影響し、前回予想を下回りました。

一方、当期純利益につきましては、平成 28 年 3 月 1 日付で開示しました通り、固定資産売却益 3,808 百万円を特別利益として計上することが大きく影響し、前回予想を上回りました。

なお、平成 28 年 8 月期の配当につきましては、当初の公表計画通り 1 株当たり 14 円（中間 6 円、期末 8 円）を予定しております。

3. 特別損失の計上

当社は、平成 28 年 8 月期第 2 四半期において下記の通り特別損失の計上を行います。

(1) 連結

合計で 2 4 3 百万円の特別損失を計上いたします。詳細は下記の通りです。

- ①減損損失 1 2 8 百万円
最近の業績動向及び今後の見通しを踏まえ、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、店舗設備資産等の減損処理を計上いたします。
- ②固定資産除却損 7 8 百万円
店舗改装等に伴う資産の除却・解体工事費用を計上いたします。
- ③店舗関係整理損 2 1 百万円
店舗閉鎖後に発生する費用等を計上いたします。
- ④固定資産売却損 1 4 百万円
店舗閉鎖時に売却した設備の売価と簿価の差額等を計上いたします。

(2) 個別

合計で 2 4 3 百万円の特別損失を計上いたします。詳細は下記の通りです。

- ①減損損失 1 2 8 百万円
最近の業績動向及び今後の見通しを踏まえ、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、店舗設備資産等の減損処理を計上いたします。
- ②固定資産除却損 7 8 百万円
店舗改装等に伴う資産の除却・解体工事費用を計上いたします。
- ③店舗関係整理損 2 1 百万円
店舗閉鎖後に発生する費用等を計上いたします。
- ④固定資産売却損 1 4 百万円
店舗閉鎖時に売却した設備の売価と簿価の差額等を計上いたします。

(注) 上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上